



鳥取市の姉妹都市

～次世代につなげる交流の絆～



姉妹都市

とは?



What is Tottori's
"Friendship town"?

文化交流や親善を目的として結びついた都市のことです。
鳥取市には、歴史的につながりが深い姉妹都市が
国内に4つ、海外に2つあります。



北海道
くしろ
釧路市 P.3 ▶



福島県
こおりやま
郡山市 P.9 ▶



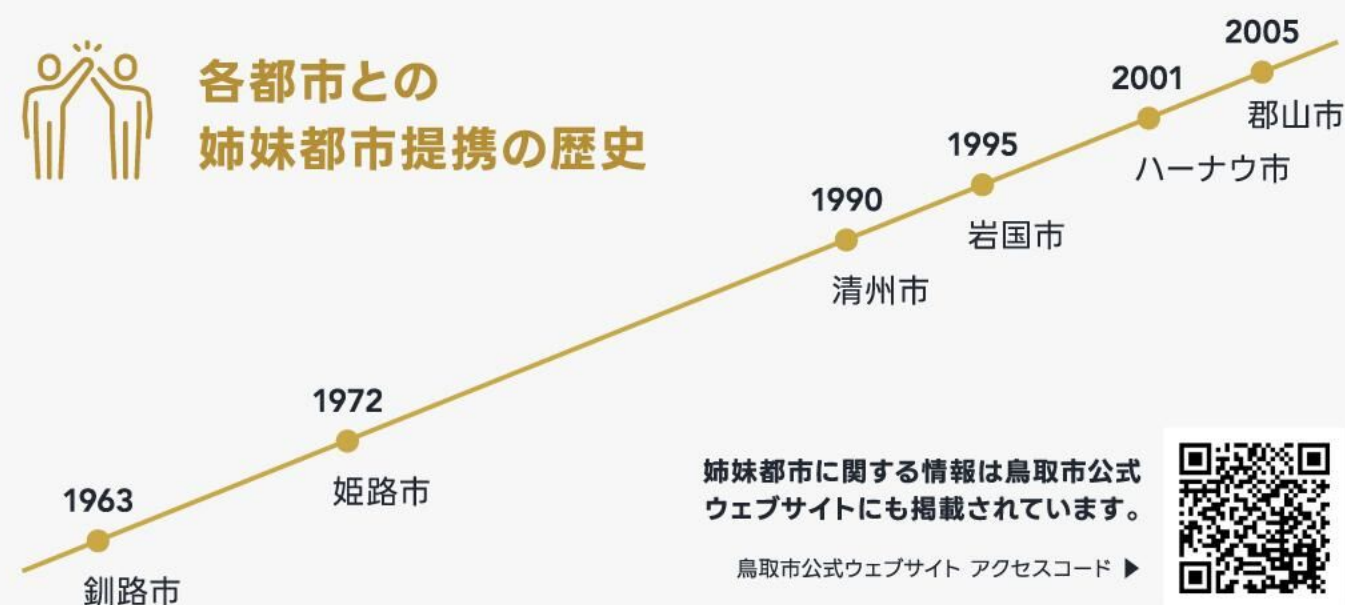
韓国
チョンジュ
清州市 P.11 ▶



ドイツ
ハーナウ市 P.13 ▶



各都市との
姉妹都市提携の歴史



姉妹都市に関する情報は鳥取市公式
ウェブサイトにも掲載されています。

鳥取市公式ウェブサイト アクセスコード ▶



釧路市



▲ 釧路市公式サイト

釧路市は、北海道東部にあるまちで、「釧路湿原（くしろしつげん）国立公園」と「阿寒摩周（あかんましゅう）国立公園」の2つの国立公園があり、国の特別天然記念物である「タンチョウ」や「阿寒湖（あかんこ）のマリモ」などが見られます。また、「阿寒湖温泉」には、アイヌ民族の人々が暮らしながら、文化を伝える場である、国内最大規模の集落「阿寒湖アイヌコタン」があり、アイヌ文化を感じることが出来ます。世界に誇る自然・歴史・文化があるまちとして、国内外から多くの観光客が訪れる旅の拠点です。

鳥取市とのつながり

1884(明治17)年から翌年にかけて、釧路の地を開拓するために、513人の鳥取士族が移住しました。長年の苦労を経て、釧路の地に鳥取村(1949年釧路市と合併)を形成したことが縁となり、交流が続いています。

年号	歴史/交流経過
1884～1885	釧路開拓移住のため鳥取士族(105戸513人)が鳥取港を出港。鳥取村を形成。
1890	釧路鳥取報恩会が創立。
1940	鳥取神楽獅子舞保存会が設立(のち麒麟獅子舞保存会と改称)。
1949	鳥取村が釧路市に合併。
1963	・鳥取開基80年が契機となり、10月4日に姉妹都市提携。 ・釧路・鳥取傘踊り保存会が発足。
1986	鳥取中央ライオンズクラブと釧路ぬさまいライオンズクラブが姉妹クラブ提携。
	鳥取市の「鳥取市木のまつり」や釧路市の「釧路大漁どんぱく」にPRブースを相互出展。
2020	「釧路鳥取きりん獅子舞」が北海道無形民俗文化財に指定。

つながりを知る・巡る



釧路開拓移民団出港之地

くしろかいたくみんだんしゅっこうのち 鳥取港(賀露港)は、かつて鳥取士族が釧路の地を開拓をするために出港した場所です。鳥取市と釧路市の姉妹都市提携30周年の際に、記念碑が建てられました。



釧路の地名「鳥取」

▲ 釧路の鳥取神社

釧路の地に鳥取村が形成されていたことから、釧路市には現在も「鳥取」と名の付く町名、神社、道路、小学校などがあります。



国立公園「釧路湿原」



とくべつてんねんきねんぶつ

特別天然記念物「タンチョウ」

白・黒・赤の三色のコントラストとその姿が美しいタンチョウは、古くから伝わる民話の中にも登場し、日本のシンボリック存在です。一度は絶滅したと思われましたが、1924年に釧路湿原で十数羽のタンチョウが発見されたからは、地元の方々による保護活動がすすめられました。1952年には国の特別天然記念物に指定されています。アイヌ語では「サルルンカムイ(湿原の神)」と呼ばれ、その美しい姿を見るために、多くの人が釧路市を訪れます。



とくべつてんねんきねんぶつ

特別天然記念物

あかんこ

「阿寒湖のマリモ」

たくさんの糸状のマリモが集まって、風や波の力によって水の底で回転しながら丸くなったものです。最大直径30cmに及ぶ巨大な球状マリモが観測されるのは世界でも阿寒湖だけといわれており、国の特別天然記念物に指定されています。

釧路大漁どんぱく

“大地の恵み・大海の幸・大空の華”をテーマに開催される「釧路大漁どんぱく」は、夏の終わりに開催される、釧路市最大のイベントです。北海道で最大級の三尺玉(さんしゃくだま)が目玉の花火大会をはじめ、様々なイベント・グルメが楽しめます。



アイヌ文化

日本の先住民族であるアイヌ民族は、独自の文化を持ち、狩りや漁業、採集によって自然とともに暮らしてきました。また、他の民族との交流も活発に行っていました。アイヌ文化は、文字を使わずに伝えられてきた文化だったため、江戸時代以前の記録が少なく、神秘的な存在となっています。



さんまんま

サンマを醤油ベースのタレに漬け込み、うるち米ともち米をブレンドした炊き込みご飯とシソの葉を巻いて炭火で焼き上げた「さんまんま」は釧路を代表する名物です。



ろばたや 炉端焼き

海産物を炉端のスタイルで提供したのは釧路が発祥(はっしょう)とされています。港町ならではの、素材本来の味が楽しめます。

釧路ザンギ

北海道の名物料理である、鶏のから揚げ「ザンギ」は、釧路のお店がルーツであると言われています。ウスターソースのような独自のタレをつけて食べるのが、釧路ならではの食べ方です。



スパカツ

あつあつの鉄板の上に、濃厚なミートソーススパゲッティとトンカツを乗せた、釧路で親しまれている名物グルメです。



かってどん

勝手井

JR釧路駅近くの「和商市場(わしょういちば)」では、ご飯の上に好きな魚介類を選んで盛り付けた自分だけのオリジナル海鮮丼を食べることができます。



姫路市

ひめ

じ



▲姫路市公式サイト

古くから播磨の政治・文化の中心地として栄え、世界遺産・国宝姫路城を擁し、旧城下町の面影がある歴史的な街並みのほか、豊かな自然や農産物・水産物に恵まれています。また、ものづくり産業が集まる商工業の都市として発展しています。

「ともに生きともに輝くにぎわい交流拠点都市姫路」を目指して、まちづくりに取り組んでいます。

鳥取市とのつながり

1600(慶長5)年、姫路城主・池田輝政(いけだてるまさ)の弟である池田長吉(ながよし)が鳥取城主になり、1617(元和3)年には、姫路藩の第3代藩主であった池田光政(みつまさ)が鳥取32万石の藩主をつとめたことが縁となり、交流が続いています。

年号	歴史/交流経過
1600	姫路城主・池田輝政の弟である池田長吉が鳥取城主となる。
1617	池田光政が鳥取32万石の藩主となる。
1970	中学生合宿交歓会を相互に実施。 (以降、毎年実施)
1972	・岡山・姫路新幹線開通が契機となり、3月8日に姉妹都市提携。 ・市議会交流研修を相互に実施。 (以降、毎年実施)
1977	親善スポーツ交歓大会を相互に実施。 (以降、毎年実施)
1979	公民館・自治連合会交流を相互に実施。 (以降、毎年実施)

つながりを知る・巡る



場所:鳥取市・姫路市

鳥取城と姫路城

鳥取城は、姫路城との歴史的結び付きの象徴ともいえる存在です。関ヶ原の合戦後、姫路城主・池田輝政の弟である池田長吉が鳥取

城主を務め、その後、お国替えに伴い、輝政の孫である池田光政が鳥取32万石の藩主として、現在残る鳥取城の城郭(じょうかく)とまちの基礎を築きました。鳥取城の二ノ丸三階櫓(にのまるさんかいやぐら)は、姫路城の大天守を築いた職人たちが鳥取へ移った後に、築いたものと伝わっています。



場所:鳥取市

池田家墓所

初代鳥取藩主の池田光仲(みつなか)をはじめ、その後の歴代藩主と藩主夫人や同族78基の墓碑が立ち並んでいます。周囲には、家臣などが供え

た約260基の灯るうがあります。豊かな四季を楽しむことができ、国の史跡に指定されている墓所には、多くの人が訪れ、写真コンクールやライトアップなどのイベントも行われています。

世界遺産・国宝「姫路城」

ひめじじょう

1333年に、姫山(ひめやま)の地に初めて砦(とりで)が築かれたと言われています。羽柴秀吉(はしばひでよし)、池田輝政(いけだてるまさ)、本多忠政(ほんだただまさ)らによって、1617年に現在の姿が整いました。青空に映えるその姿は、水から飛び立つ白鷺(しらさぎ)に例えられ、「白鷺城(しらさぎじょう)」とも呼ばれます。1993年に、建物の美しさや工夫された防御の仕組み、保存状態などが評価され、日本で初めて世界遺産に登録されました。



だいまようぎょうれつ

姫路大名行列

参勤交代や市中への外出など、大名が出かける際には行列を組んで練り歩いていました。姫路市では、姫路市所蔵の行列絵図を参考に、江戸時代の衣装や道具、持ち物など、900点余りを復元し、姫路お城まつり等で大名行列を再現しています。



しらさぎはも

白鷺鱧

開いた身が真っ白で、まるで姫路城を思いおこすことから「白鷺鱧(しらさぎはも)」という名前になりました。夏が旬ですが、産卵期を終えた秋ごろから脂がのつてくるため、肌寒くなってからも美味しく食べられます。姫路市では、ほぼ1年をとおして漁獲しています。



ひめじわぎゅう

姫路和牛

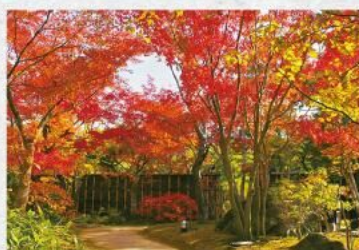
姫路市など西播磨地域で育てられ、肉質などの厳しい基準をクリアした黒毛和種です。その中でも、但馬牛(たじまうし)を親とする「プレミアム姫路和牛」もあります。



すいさんねりせいひん

水産練製品

瀬戸内海に面し、魚介類が豊富に手に入る姫路では、古くから魚介類のすり身を原料とした、かまぼこやちくわ作りが盛んに行われてきました。手軽に食べられるものから、贈り物にぴったりの高級品まで、幅広い世代に愛されています。



こうこえん

好古園

平成4年に開園した日本庭園です。世界遺産・国宝姫路城を背景に取り込み、門や塀をくぐることに9つの異なった庭園を楽しめます。江戸時代の情緒が感じられることから、時代劇や大河ドラマのロケ地としても使われています。



しょうしゃざんえんぎょうじ

書寫山圓教寺

966年に、開かれた天台宗の古寺で、標高371mの書写山にあります。境内(けいだい)には、国や県が指定した文化財が多くあり、京都の清水寺に似ていると言われる「摩尼殿(まにでん)」や重要文化財の「大講堂」・「食堂(じきどう)」などは必見です。



日本酒

姫路を含む播磨は河川に恵まれており、播州平野で収穫される「山田錦(やまだにしき)」は「酒米の王様」と呼ばれています。良質な水や「山田錦」などの酒米を使って、それぞれの酒蔵が個性ある良質な日本酒を造ります。

かし

姫路の菓子

江戸時代後期、姫路藩主が茶の湯を好んだことから、姫路城下の和菓子文化は大きく発展しました。また、オランダから長崎を経て姫路に伝わった、かりんとうなどは「播州駄菓子(ばんしゅうだがし)」として全国的に有名になりました。



てのべそうめん

手延素麺

姫路市など西播磨地域で生産される「搦保乃糸(いぼのいと)」は、糸のように細く美しい姿が特徴です。およそ600年前から伝わる「手延製法(てのべせいほう)」で作られた手延素麺は、なめらかでコシのある食感と風味が楽しめます。

岩国市



▲岩国市公式サイト

山口県東部、広島県との県境にあります。2006年、錦川(にしきがわ)の下流域の旧岩国市と周辺町村が合併して、瀬戸内海沿いの地域から中国山地の山沿いまでが現在の岩国市となりました。県内では山口市に次いで2番目に広い面積です。市街地や海沿いの地域では、朝晩の気温の差が少ない穏やかな気候です。山沿いの地域では、気温の差は大きくなり、冬には雪景色が見られます。市街地を離れると、錦川と枝分かれた川による清らかな流れに沿って、田畑と森林による豊かな自然が広がります。

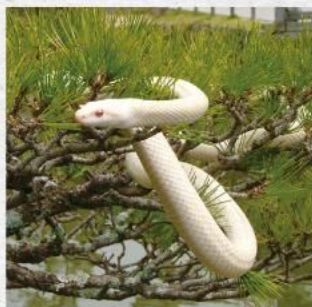


きんたいきょう

錦帯橋

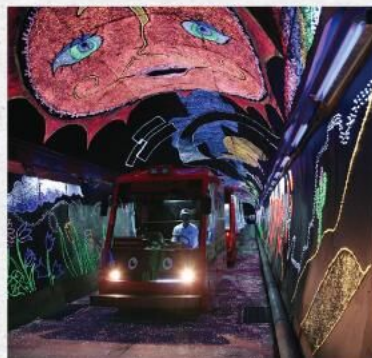
国指定の名勝であり、日本を代表する木造橋です。1673(延宝元)年かけました。木造部分のかけかえは定期的に行っており、江戸時代に、岩国3代領主の吉川広嘉(きっかわひろよし)が現在の橋の原型となる木造橋をから行われている伝統事業です。

に、岩国3代領主の吉川広嘉(きっかわひろよし)が現在の橋の原型となる木造橋をから行われている伝統事業です。



岩国のシロヘビ

長さは1.8メートル、胴回りは15センチメートル余り、アオダイショウの「アルビノ」が遺伝的に固定している種です。目はルビーのように赤く、全身は白く光沢があり、清楚な姿でとても神秘的です。おとなしく温順で、人に危害を加えることはありません。「アルビノ」は、普通は一世代限りの遺伝子異常ですが、岩国のシロヘビは、形質が遺伝で維持されていて、世界的にも非常に珍しく貴重です。



とことこトレイン

かつて建設されていた鉄道路線「岩日北線(がんにちきたせん)」跡地の一部を利用して、運行している観光トロッキ遊覧列車です。約6キロメートルを走り、清流としても知られている宇佐川流域の大自然を満喫できます。「きら夢トンネル(全長1,796メートル)」には、光る石で銀河をイメージした壁画があり、幻想的な姿を現します。



つまんでちゃんまげ

岩国のおいしい日本酒(雁木(がんぎ)・五橋(ごきょう)・金冠黒松(きんかんくろまつ)・金雀(きんすずめ)・獺祭(だっさい)など)とよく合うように、岩国の名産物で作られたおつまみシリーズです。錦川の清らかな水と豊かな自然で職人が心を込めて作り上げた「岩国ならではの」を味わえます。

岩国れんこん

シャキシャキした歯触り、かじると糸を引く、コシのあるでんぷん質の粘りなどが特徴で、味の良さは格別です。また、一般的なレンコンは穴が8つですが、岩国レンコンには穴が9つあり、見通しがよいとされています。



たかもりぎゅう

高森牛

高森牛を生産している周東町(しゅうとうまち)は、明治時代の初期から食肉産業が盛んで、当時から全国の優良牛を扱っています。甘み、コクがあり、信頼のおける銘柄牛として、県内外の消費者からの人気が高いです。



鳥取市とのつながり

1581(天正9)年、毛利家の武将で鳥取城主であった吉川経家(きっかわつねいえ)は、織田家の武将羽柴秀吉(はしばひでよし)との合戦の際、自害することで家来や民衆の命を助めました。その後、経家の子孫が岩国藩の家老をつとめたことが縁となり、交流が続いています。



年号	歴史/交流経過
1581	・羽柴秀吉が鳥取城を兵糧攻め。 ・城主・吉川経家は兵糧攻めに対して、家来や民衆の命を助けるために35歳の若さで自害。
—	経家の子孫が岩国藩で代々家老を務める。
1991	鳥取吉川遺徳顕彰会を中心とした鳥取市民の代表43人が岩国市を訪れ、吉川経家の法要を営む。
1993	吉川経家の銅像が鳥取市のお堀端(おほりばた)に完成。
1995	10月13日に姉妹都市提携。
2006~	鳥取市剣道大会兼吉川経家祭剣道大会に岩国市の選手らが参加。(以降、毎年実施)
2011~	吉川家にゆかりのある地で「全国吉川交流会」を開催。
2021	「第5回全国吉川交流会in鳥取」を開催。

つながりを知る・巡る



場所:鳥取市

きっかわつねいえ

吉川経家の銅像

吉川経家は「鳥取市民の命の恩人」と言われています。天下統一を目指す織田信長(おだのぶなが)が羽柴秀吉に鳥取城を攻めさせました。経家は城にこもって戦うことを決めましたが、秀吉は兵糧

攻め(ひょうろうぜめ)を行い、城内は悲惨な状況になりました。経家は城内でともに戦った兵士や城に避難した住民の命を助けるために自害しました。その功績は現在も語られており、鳥取城跡の近くに銅像が建てられています。



場所:岩国市

吉川史料館

吉川家に伝来した歴史資料や美術工芸品が、約7,000点収蔵されています。吉川家が大切に伝存してきた国宝「狐ヶ崎の太刀(きつねがさきのたち)」や、国の重要文化財である吉川家文書「吾妻鏡・

太平記(あずまかがみ・たいへいき)」など2,500点にも及ぶ歴史資料や貴重な品々を、年4回程度の展示替えにより順次公開しています。

こおり

やま

郡山市



▲ 郡山市公式サイト

福島県の中央にあり、首都圏から東北新幹線で約80分というアクセスの良さに加え、鉄道や東北・磐越(ばんえつ)自動車道が縦横に交差するなど、交通の利便性が高いです。人・モノ・情報がつながり、交流する都市として発展を続けています。



郡山市中心部

鳥取市とのつながり

1880(明治13)年から、安積平野(現在:郡山)のまちづくりを進める安積開拓のため、約270人の鳥取士族が郡山の地に移住しました。苦勞の末に開拓事業を成し遂げたことが縁となり、交流が続いています。

年号	歴史/交流経過
1880～1887	安積開拓のため、鳥取士族67戸・約270人が広谷原(現在:郡山市喜久田町)に移住。
1993	鳥取いなばライオンズクラブが郡山市を訪問し、郡山開成ライオンズクラブと友好クラブ提携。
1994	鳥取女子高等学校(現在:鳥取敬愛高等学校)社会部が調査のため福島県を訪れ、同県博物館の展示の中に「鳥取」の地名を発見。
1995	同部が、福島県の郡山市宇倍神社を訪れ、社務所から移住者に関する資料を発見。(のちに開拓移住者の子孫による交流が開始)
—	「郡山の農業・観光物産展」や「こおりやま産業博」で鳥取市物産展を実施。
—	「鳥取市木のまつり」で郡山市物産展を実施。
2005	11月25日に姉妹都市提携。
2010～	両市小学校が夏季研修交流などを実施。
2011	3月11日に発生した「東日本大震災」に対する災害救援隊を鳥取市から郡山市へ派遣。市民団体等が災害復興のための寄付金を郡山市へ送る。
2020～	両市小学校が両市の伝統的工芸品である和紙を通じたオンライン交流などを実施。

つながりを知る・巡る



まちづくりを進めるため、鳥取士族をはじめとする全国の士族が郡山の地へ移住しました。これら移住者たちの活躍により、郡山は大きく発展したと言われています。

いなわしろこ 猪苗代湖

明治時代、開拓を進めるうえで水不足が問題となりました。そこで、水の便が悪く不毛の地が広がっていた安積平野に猪苗代湖から水を引き、



郡山市の宇倍神社

鳥取から郡山に移住した人々は心のよりどころとして、鳥取市の宇倍神社の神様を分けてもらい、「宇倍神社」を建てました。



郡山ラーメン

郡山市は、知る人ぞ知るラーメン激戦区です。濃厚な醤油を使った黒いスープが特徴のご当地ラーメンをはじめ、個性的なラーメン店が数多く存在します。



郡山クリームボックス

郡山市民がこよなく愛する、小型の食パンにミルク風味のクリームをたっぷり塗ったご当地菓子パンです。市内パン店で、お店毎に工夫を凝らしています。

こい 鯉 郡山市は、市町村別の食用鯉の生産量が日本一です。地元飲食店では和洋中、様々な鯉料理を提供しています。



あさかまい はちあちな ASAKAMAI 887

「どこよりも安全で美味しい最高級の米と、その生産者の誇りを届ける」をコンセプトに、米づくりにかかる「88」の手間と、日本一厳しい「7」つの基準を満たすことから名付けられた最高級米です。米づくりへの想いと技術を結集させて、お米の王様「コシヒカリ」を栽培しています。



がくと

音楽が拓く笑顔のカタチ 楽都郡山

戦後の荒廃した時代に、音楽を通して表現を楽しむ人々が集まり、昭和29年には、本格的なオーケストラの演奏会を実現させました。現在は、合唱、器楽など様々な音楽活動が行われるようになり、伝説の野外コンサート「ワンステップフェスティバル」などを経て「音楽都市郡山」へと発展していきました。



うねめまつり

奈良時代のうねめ伝説にちなんだ郡山最大のお祭りです。「采女供養祭(うねめくようさい)」や約6,000人の市民が一堂に集る「うねめ踊り流し」などが行われます。



えびね ながつき よい

あきはたる

海老根長月宵あかり～秋蛸～

海老根伝統手漉和紙(えびねでんとうてすきわし)で作った灯ろうを飾るお祭りです。和紙を照らす小さな炎が風にゆられ、まるで蛸のようにみえることから「秋蛸」と呼ばれるようになりました。



高柴デコ屋敷

たかしば やしき 西田町に古くから伝わる「デコ」と呼ばれる張子人形工人の集落があります。四軒の家々が数百年の伝統を守り、張子人形や張子面、三春駒などを作り続けています。



海老根伝統手漉和紙

えびねでんとうてすきわし 中田町海老根地区で江戸時代から作られている和紙です。地域の小学校の卒業証書などに使われています。

チヨン

ジュ

清州市

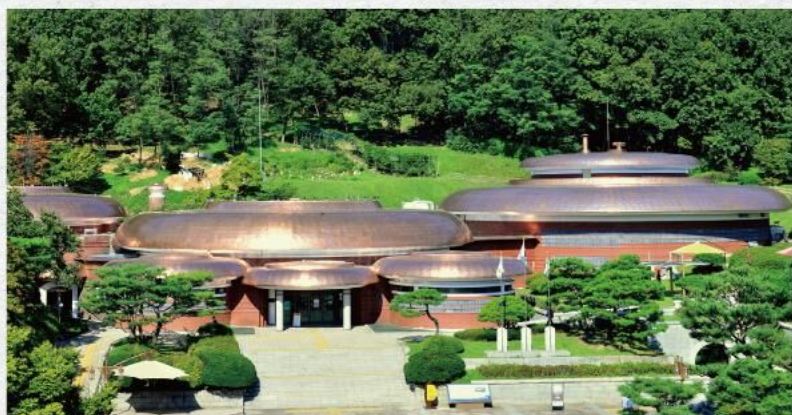


▲清州市公式サイト

韓国の首都ソウルから東南へ128kmの場所にあります。清州国際空港、KTX五松駅、京釜中部高速道路があり、韓国のどこからでも約2時間で着くことができる交通の要地で、「忠清北道(チュンチョンブクト)」の中心地として発展を続けています。昔から学者・研究者を多く生んだ教育文化都市として知られています。現存する世界最古の金属活字本を作った場所としても有名です。近年では、半導体やバイオ産業が盛んです。

こくりつチョンジュはくぶつかん 国立清州博物館

1987年10月30日に開館し、先史時代から朝鮮時代までの遺物を、約2,300点展示しています。建物は、韓国の代表的な建築家である「金壽根(キムスグン)」が設計したもので、韓国現代建築において大きな意味を持っています。清州市内にある牛岩山(ウアムサン)東側のふもとにたたずんでおり、まわりの美しい風景も必見です。



チョンジュこいんさつはくぶつかん 清州古印刷博物館

現存する最古の金属活字本である「直指(チクチ)」を印刷した場所「興徳寺址(フンドクサジ)」に建設された博物館です。当時の印刷文化に関する重要な資料が展示されています。



きんぞくかつじほん チクチ 世界最古の金属活字本「直指」

ドイツ出身の「ゲーテンベルグ」による聖書印刷よりも早い、1377年に清州市の興徳寺(フンドクサ)で印刷されており、現存する最古の金属活字本です。2001年には、ユネスコ世界記録遺産に登録されました。



清州市(上空から撮影)



チョンウォンセンミョン

清原生命祭り

環境にやさしい都市としての代表的な農畜産物の祭りで、2008年から毎年開かれています。テーマのある展示、多様な体験イベント、文化公演などが有名です。また、農業の現在と未来を考え、様々な文化を感じることができる体験の場を作っています。



サンダンサンソン

上党山城

清州市郊外の山頂に築かれた山城で、城壁の長さは約4km、広さは約180万㎡もあります。城壁の内部には集落があり、伝統家屋や食堂、土産物屋などがあります。現在の城壁は、18世紀に改築されたもので、東・西・南の3つの門は、ほぼ当時のまま残っています。



チョンジュこうげい

清州工芸ビエンナーレ

2年に一度開催され、焼き物、うるしぬり、繊維、金属など、世界の工芸を集めた国際総合芸術祭です。世界60か国、約3,000人の作家が参加し、30万人以上の観覧客が訪れるなど、世界最大規模・最高レベルを誇ります。

鳥取市とのつながり

1986(昭和61)年、当時の西尾優鳥取市長が清州市を訪問した際に、清州市長から鳥取市長に対して、清州市初の名誉市民の称号が送られたことが縁となり、交流が続いています。

年号	歴史/交流経過
1986	鳥取市長が清州市を訪問。
1990	鳥取市長と訪問団30名が清州市を訪問。8月30日に姉妹都市提携。
1995	姉妹都市提携5周年を記念し、チャーター便で鳥取市訪問団158名と、清州市訪問団75名が相互訪問。記念式典、フォーラム、文化芸術交流などを実施。
2000	姉妹都市提携10周年を記念し、チャーター便で鳥取市訪問団162名と、清州市訪問団151名が相互訪問。
2001	清州国際工芸ビエンナーレに鳥取市ブースを出展。
2003	鳥取空港と清州空港を結ぶ相互チャーター便が就航し、両市民が相互訪問。
2005	姉妹都市提携15周年を記念し、鳥取市訪問団109名が清州市を訪問。
2011	姉妹都市提携20周年を記念し、鳥取市訪問団71名が清州市を訪問。
2019	鳥取県東部日韓親善協会と清州市国際交流会41名が「鳥取市・清州市青少年交流事業」を実施。バレーボール、茶道・華道、相撲を通じて両市の青少年同士が交流。

つながりを知る・巡る



小学生の訪韓記録 「チングガ・テジャ」

1988(昭和63)年に、清州市の小学生と鳥取市の小学生がお互いの都市を訪問し、友好を深めました。「チングガ・テジャ」は「ともだちになろう」という意味があり、5日間の訪問期間のうち、清州市の家庭に3泊して友情を育んだ感想を、訪問した子どもたちをはじめ、保護者、引率した教員、日韓親善協会会員などが書いたものです。



清州工芸ビエンナーレ 鳥取市ブース

2001年から「鳥取市展示ブース」を出展しており、展示ブースでは、鳥取市の工芸品や民芸品のほか、鳥取市の代表的な場所を紹介しています。

ハーナウ市



▲ハーナウ市公式サイト

フランクフルト市の約20km東にある、850年の歴史をもつ商業都市です。童話で有名なグリム兄弟が生まれたまちであり、ハーナウからブレーメンまで続く「メルヘン街道」の起点として知られ、国内外から多くの観光客が訪れています。

グリム兄弟

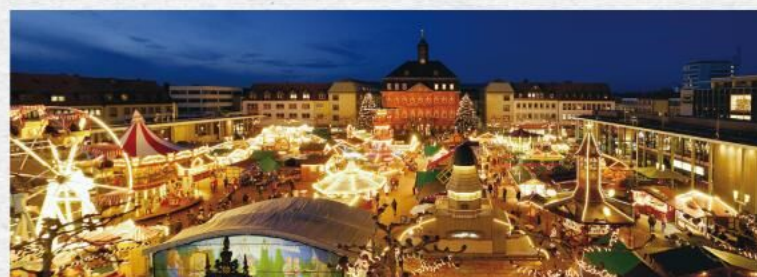
「赤ずきん」や「白雪姫」などを集めた「グリム童話」で有名になったヤーコブ・グリム(1785～1863)とヴィルヘルム・グリム(1786～1859)はハーナウで誕生しました。ハーナウ市役所の前には、グリム兄弟の記念像が設置され、ハーナウからブレーメンまでの「メルヘン街道」のはじまりの場所となっています。



鳥取市とのつながり

1989(平成元)年、鳥取市制施行100周年記念事業として「'89鳥取・世界おもちゃ博覧会」を開催しました。この博覧会で、ハーナウ市のヘッセン人形博物館が所蔵する昔の操り人形を展示したことが縁となり、交流が続いています。

年号	歴史/交流経過
	・鳥取市制施行100周年記念事業「'89鳥取・世界おもちゃ博覧会」で昔の操り人形を展示。
1989	・同博覧会に展示されていた、昔の鳥取の建物や市民を再現した和紙人形ジオラマ「タイムスリップ鳥取」をヘッセン人形博物館へ寄贈。
1995	鳥取市のわらべ館とハーナウ市のヘッセン人形博物館が姉妹館提携。
1999	ハーナウ市訪問団や鳥取市友好親善訪問団の相互訪問を契機に、姉妹都市提携に係る共同宣言書に署名。
2001	11月20日に姉妹都市提携。 (以降、両市訪問団による交流を実施)
2011	姉妹都市提携10周年を迎え、記念式典や音楽コンサートの開催、記念植樹を実施。
2021	姉妹都市提携20周年を迎え、鳥取市とハーナウ市の交流の立役者であるヘッセン人形博物館のゲルトルート・ローゼマン初代館長に鳥取市特別名誉市民称号を贈呈。その他、各種イベントを実施。



クリスマスマーケット

毎年11月末から12月末まで行われます。ハーナウ市役所前のマーケット広場で開催され、多くの食べ物や工芸品を販売する屋台が立ち並び、たくさんの人でにぎわいます。



メルヘンフェスティバル

グリム兄弟の誕生から200周年にあたる1985年以来、毎年5月から8月の間にフィリップスルーエ城の庭園で開催される野外演劇祭です。



グリム兄弟トルテ

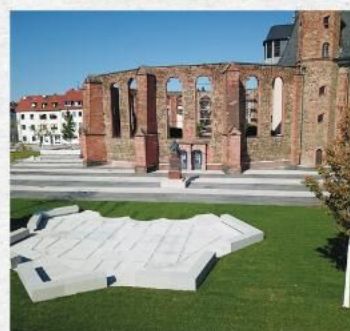
ハーナウ市限定のアーモンドタルトです。国際的にも人気の高いケーキで、材料はアーモンド、ピスタチオ、チョコレート、クッキー、アーモンドの香りがあるお酒、スパイスなどを使います。ケーキの上には「マジパン」というお菓子に、グリム兄弟のイラストが使われたものが飾られています。

つながりを知る・巡る



ヘッセン州人形・おもちゃ博物館

「近代的な博物館」をコンセプトに、古代から現代までの人形や遊びの展示がされています。鳥取市のわらべ館と姉妹館提携を結んでおり、人形やおもちゃを通じた交流を行っています。その他に、鳥取市の流し人形、しゃんしゃん傘など、鳥取市を紹介するコーナーや、「'89鳥取・世界おもちゃ博覧会」を契機に、鳥取の和紙人形制作グループ「駒鳥会」が寄贈した鳥取のジオラマの展示があります。



オランダ・ワロン教会

オランダとワロン地方から宗教上の関係でハーナウ市へ避難してきた信仰者によって、17世紀初めに建てられました。宗教が異なっても、仲良く共生できることを象徴するカトリック・プロテスタントの混合教会です。



ヴィルヘルムスパート公園

丁寧にデザインされたルネサンス調の建物とイギリス風景式庭園は、散歩や癒しのスポットとなっています。敷地内には、喜劇場(コメディアンハウス)と鳥取市わらべ館の姉妹館であるヘッセン州人形・おもちゃ博物館があります。



フィリップスルーエ城

1712年に建てられた、左右対称で豪華なバロックの城です。城の中には、子どもから大人まで、グリム童話が楽しめるドイツ初の体験型博物館があります。また、ハーナウ歴史博物館と紙しばい博物館、自然豊かなハーナウ市野外彫刻公園などがあります。夕方には、近くにあるシュタインハイム旧市街の美しい夕暮れを楽しむことができます。



リンゴ酒

夏に人気で、爽やかな味わいのヘッセンの名物です。毎年8月にリンゴ酒をふるまう祭りが開催されます。リンゴ酒は「ベンベル」という特殊な容器に入っており、グラスに注いで飲みます。ベンベルは、様々な大きさや模様のものがあります。リンゴ酒やベンベルを紹介するハーナウ市リンゴ酒博物館もあります。



ゴルトシュミーデハウス (旧ハーナウ市役所)

1537年に建てられ、1900年までハーナウ市役所として使われていました。現在は金銀・宝石細工の資料館・展示館となっています。



Friendship Town of Tottori

人が集う交流と連携のまちへ

- 企画・制作 | 鳥取市文化交流課
- 2024年6月 第2版発行
(2023年3月 初版発行)

Webコンテンツもご覧ください

- ・ 姉妹都市についての映像
- ・ 本ガイドブックのダウンロード

パソコン・スマートフォンでご覧いただけます →

